

第9節 家 庭

第1 家庭科の基本的事項

1 改訂のねらい

(1) 改善の基本方針

変化の激しい「知識基盤社会」の時代といわれる21世紀では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。平成17年4月、中教審の検討が開始され、この間、平成18年12月、約60年ぶりの教育基本法改正、平成19年6月、学校教育法の改正が行われた。知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力、判断力、表現力等の育成及び学習意欲が重視され、学校教育においてはこれらを調和的にはぐくむ必要性が、法律上規定された。これらを踏まえ、平成21年3月に高等学校学習指導要領が改訂された。

高等学校家庭科においては、中教審の答申に示された改善の方針及び改善の具体的事項を踏まえ、人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活を創造する能力と主体的に実践する態度を育てることを重視し、改善が図られた。

前回の改訂では、21世紀を担う子どもが育つために必要な家庭の在り方の見直しや、男女共同参画社会の推進、少子高齢化等の課題への対応が重視された。また、平成12年4月の中教審「少子化と教育について」の報告で、すべての高校において幼稚園等で幼児と触れ合う体験学習の機会の充実を図るなど「子育て理解教育」が提言された。

本県の特徴は、合計特殊出生率が1.28(全国1.37 人口動態統計)と全国第41位と低い。核家族世帯の割合は64.4%(全国57.9% 国勢調査)と高く、18歳未満の児童がいる世帯に占める核家族世帯の割合も82.5%(全国77.1%)と高い。今後、年少人口の減少により急速に少子高齢化が進むことが推定される。子育て世代の25歳から44歳の男性の就業時間は1/4が週60時間以上(就業構造基本調査)である。県外への通勤者の割合も全国に比べて高い。これは本県の子育て世代の男性の長時間労働と長時間通勤の実態を示している。また、核家族化、都市化等に伴うコミュニティ機能の低下などの状況がある。

県教育委員会では、平成17年11月にまとめた「教育改革アクションプラン改訂に向けた協議・最終まとめ」で、「学校に『親になるための学習』を取り入れる」ことが提言され、平成19年7月に『「親の学習」プログラ

ム集』を開発した。国において平成17年6月に食育基本法が成立したことを受け、本県では平成20年2月、「埼玉県食育推進計画」を策定した。また、高校生全員に体験活動をさせることにより、問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付けさせるなど、調和のとれた豊かな人間性や社会性をはぐくむことをねらいとして体験活動の推進を図っている。

また、OECD(経済協力開発機構)が定義している主要能力(キー・コンピテンシー)は、知識基盤社会の時代を担う子どもたちには「生きる力」をはぐくむことから大切である。キー・コンピテンシーとして「課題を見いだし解決する力」、「知識・技能の更新のための生涯にわたる学習」、「他者や社会、自然や環境と共に生きること」など変化に対応するための能力が求められている。家族、子ども、高齢者、家庭生活と地域社会など人とのかかわる内容を学習する家庭科では、コミュニケーション能力を高め、知識・技能を活用して問題を解決する能力を重視している。「生活課題を見付け、自ら解決する力」は、高等学校家庭科の特色であるホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を通して総合的に問題解決能力をつけることができるため、しっかりと取り組んで一層充実させる必要がある。

(2) 改善の具体的事項

高等学校家庭科においては、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯を見通してよりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、教科及び各科目の目標の改善が図られた。

ア 社会の変化への対応として、家庭を築くことの重要性、食育の推進、少子高齢化における子育て理解、高齢者の肯定的な理解や支援する行動力の育成、日本の生活文化にかかわる内容を充実させる。

イ 高校生の発達課題と生涯の生活設計、キャリアプランニングなどの学習を通して、次世代を担うことや生涯を見通す視点を明確にするとともに、生涯賃金や働き方、年金などとの関係に関する指導などを加え、生涯を総合的にマネジメントする内容を充実させる。その際、生涯にわたる生活設計や多重債務等の深刻な消費者問題、衣食住生活と環境のかかわりなどを科学的に理解させるとともに、社会の一員として生活を創造する意思決定能力を習得させることを明確化する。

ウ 家庭科の学習を実際の生活と結び付け、問題解決学習を行うホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を一層充実させる。

2 共通教科「家庭」の目標及び科目の編成

(1) 共通教科「家庭」の目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

共通教科としての家庭科では、人々が互いにかかわり合いながら共に生きる社会の一員としての自覚の下で、男女が協力して家庭生活を築いていく意識と責任をもたせ、生活に必要な知識と技術を身に付けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目標としている。

すなわち、家族・家庭についての理解、共に生きる生活観の育成、家庭生活の様々な事象の原理・原則についての科学的理解、理解したことを実際の生活の場で活用するための技術の習得、生活を総合的に認識し、適切に判断する意思決定能力、課題を解決する問題解決能力など、生涯を見通して主体的に生きる力を育成し、家庭や地域の生活を創造できるようにすることを目指している。

(2) 科目の編成

共通教科「家庭」は、次の3科目で構成されている。

共通教科「家庭」の科目構成

改訂後 (平成21年告示)		改訂前 (平成11年告示)	
科目名	標準単位数	科目名	標準単位数
家庭基礎	2単位	家庭基礎	2単位
家庭総合	4単位	家庭総合	4単位
生活デザイン	4単位	生活技術	4単位

今回の改訂においては、「教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ『生きる力』を育成する」という中央教育審議会の答申に基づき、各学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成を促すように具体的に示した。また、家庭科は平成11年告示の学習指導要領と同様にすべての生徒に履修させる教科であり、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じて「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活デザイン」のうち、いずれか1科目を選択的に履修させることとしている。

(3) 各科目の履修

ア 履修の順序及び学年

各学校においては、今回の改訂の趣旨と埼玉県教育課程検討委員会報告を十分に理解し、学校で特定の科目に決めてしまうのではなく、複数の科目を開設して生徒が選択できるようにすることが望ましい。

共通教科の家庭科は、すべての生徒に履修させる教科であり、「家庭基礎」(2単位)、「家庭総合」(4単位)及び「生活デザイン」(4単位)の3科目のうち、いずれか1科目を選択履修させることとしている。家庭科の重要性をかんがみて、4単位科目も生徒が履修できるように教育課程の編成に配慮することが望まれる。なお、その際はガイダンスの機能の充実を図る。

また、生徒の興味・関心、進路希望等に応じ、より深く高度に学んだり、より幅広く学んだりするために、可能な限り選択科目を設置することが望ましい。選択科目としては、高等学校学習指導要領第3章「主として専門学科において開設される各教科」第5節「家庭」の各科目や第1章第2款の「4 学校設定科目」も考えられる。

3 指導計画の作成

各学校においては、創意工夫を生かし、全体として調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。

また、高等学校の共通教科としての家庭科は、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもってよりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点を考慮した。今回の改訂においては、人と人とのかかわりや家族の在り方など、人間の生き方や家族などに関する学習を中核にし、人の一生を時間軸でとらえるとともに、生活の営みに必要な金銭、生活時間、人間関係などの生活資源や、衣食住、保育などの生活活動にかかわる事柄を空間軸としてとらえ、各ライフステージの課題と関連付けて理解させることとした。

第2 各科目の概要

1 「家庭基礎」

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

「家庭基礎」は、少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかわり共に生きる力を育てることを重視している。

従前の「家庭基礎」の内容を再構成し、人の一生を見通し、衣食住生活についての科学的な理解を深めるとともに、生涯にわたってこれらの能力を活用して課題を解決できるよう改善を図った。

この科目は、(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、(2)生活の自立及び消費と環境、(3)ホームプロジェクトと

学校家庭クラブ活動の3項目で構成されている。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心として指導するとともに、相互に有機的な関連を図り展開できるよう配慮する。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉

人は各ライフステージの課題を達成しつつ発達するという生涯発達の視点で自分自身の一生をとらえさせ、青年期、壮年期、高齢期という時間軸に沿って各ライフステージの特徴と課題を理解させる。また、自立した生活を営むための意思決定、子どもや高齢者の生活と福祉などの学習を通して、共に支え合う社会の重要性について認識させる。

ア 青年期の自立と家族・家庭

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題を見通し、男女が協力して家庭を築くことの意義や、歴史的、文化的、社会的変化との関連で現代の家族・家庭の特徴を理解させる。特に、自立した生活を営むためには、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任をもって行動することが重要であることを認識させる。ここでは、職業選択、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などの具体的な事例を取り上げて考えさせる。

イ 子どもの発達と保育

乳幼児の心身の発達の特徴、乳幼児の遊びや生活習慣の形成などの乳幼児の生活、親や家族の保育責任について理解させる。また、子どもを生み育てることの意義について考えさせ、子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について認識させる。さらに、次の世代を担う子どもを健やかに育てるために子どもと適切にかかわり、子どもとのコミュニケーション能力を高めることが重要であることを理解させる。

ウ 高齢期の生活

人の一生を見通す中で高齢期をとらえ、加齢に伴う心身の変化や特徴を理解させる。また、高齢期になっても、だれもが安心して自立的な生活を送ることができる高齢社会を築くために、個人や家族、地域及び社会の果たす役割について考えさせる。

エ 共生社会と福祉

生涯を通してだれもが自分の力を生かし、他からの援助も得ながら安心して暮らせる社会をつくることの重要性を認識させ、各ライフステージにどのような福祉や社会的支援が必要かを理解させる。また、多様なニーズをもった人々がそれぞれの特徴を生かしながら共に支え合う社会を実現するために、個人や集団がどのような役割を果たし、つながりければよいかを考えさせる。

イ及びウの指導に当たっては、学校家庭クラブ活

動等との関連を図り、地域の実態に応じて、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的・体験的な学習活動を取り入れるように努める。

(2) 生活の自立及び消費と環境

衣食住生活については、自立した生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識と技術を実験・実習を中心とした学習活動を通して習得させる。また、消費生活や生活における経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、環境に配慮したライフスタイルと生涯を見通した生活設計を考えさせる。

ア 食事と健康

食事と健康のかかわりを中心に、栄養と食事、食品と調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。

ここでは、食事作りを中心に、栄養、食品、調理及び食品衛生の学習を相互に関連付けながら、食にかかわる情報を適切に判断する能力を養い、生涯を通して健康で安全な食生活を営むことができるようにする。

イ 被服管理と着装

被服の機能と着装、及び被服に関する知識と技術を習得させ、生涯を見通した衣生活を管理し、自分の衣生活を主体的に営むことができるようにする。

ウ 住居と住環境

家族の生活の場としての住居について、防火、防犯、耐震などの安全性や日照、採光、換気、遮音、温熱・空気環境など快適な住居の条件について基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。また、高齢者や障害者などに配慮したバリアフリー住宅や地域の住環境などにも関心をもち、地域コミュニティと共生できる住居の在り方について考えさせる。

エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画

社会の変化に伴う消費構造の変化や消費行動の多様化などの現状や課題について認識させ、様々な消費者問題などについて理解させる。消費者の権利や責任については、契約や消費者信用、多重債務問題などを具体的に理解させ、消費者として適切な判断ができるようにする。また、生涯を見通した経済の計画やリスク管理について考えることができるようにする。

オ ライフスタイルと環境

経済発展や大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、様々な環境問題が生じていることに気付かせ、消費生活と環境とのかかわりについて理解させる。自らの消費行動によって環境負荷を低減させ、進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践するなど環境負荷の少ない生活の工夫について考えさせ、生活意識やライフスタイルを見直すこと

ができるようにする。

カ 生涯の生活設計

将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を認識させ、自分の目指すライフスタイルを実現するために生活設計を立てさせる。生活設計を通して社会の動きを見つめ、不測の事態にも柔軟に対応する必要性や、広い視野をもって生活を創造していくことの重要性を認識させる。

(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

高等学校家庭科の特色である「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の意義と実践方法について理解させる。

ア ホームプロジェクト

ホームプロジェクトは各自の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動である。ホームプロジェクトを実践することによって、内容の(1)及び(2)の学習を通して習得した知識と技術を一層定着し、総合化でき、問題解決能力と実践的態度を育てることができる。

指導に当たっては次のことに留意する。

- (ア) 内容の(1)及び(2)の指導に当たっては、学習内容を各自の家庭生活と結び付けて考えさせ、常に課題意識をもたせるようにして題目を選択させる。
- (イ) 課題の解決に当たっては、まず、目標を明確にして綿密な実践計画を作成させる。次に生徒の主体的な活動を重視し、教師が適切な指導・助言を行う。
- (ウ) 学習活動は、計画、実行、反省・評価の流れに基づいて行い、実施過程を記録させる。
- (エ) 実施後は、反省・評価をして次の課題へとつなげるとともに、成果の発表会を行う。

イ 学校家庭クラブ活動

学校家庭クラブ活動は、ホームルーム単位または家庭科の講座単位、さらに学校としてまとまって、学校や地域の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動である。学校家庭クラブ活動を実践することによって、内容の(1)及び(2)の学習を通して習得した知識と技術を学校生活や地域の生活の場に生かすことができ、問題解決能力と実践的態度の育成はもとより、ボランティア活動などの社会参画や勤労への意欲を高めることができる。指導に当たっては次のことに留意する。

- (ア) ホームプロジェクトを発展させ、学校生活や地域の生活を充実向上させる意義を十分理解させる。
- (イ) 家庭科の授業の一環として、計画、立案、参加させる。
- (ウ) ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、総合

的な学習の時間など学校全体の教育活動との関連を図るようにする。

- (エ) ボランティア活動については、地域の社会福祉協議会などとの連携を図るように工夫する。

特に、「家庭基礎」においては、単位数が少ないので効果的な指導を図るように工夫する。

2 「家庭総合」

人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とののかかりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

「家庭総合」は、少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、家族や家庭の生活の営みを人の一生とのなかかわりの中で総合的にとらえ、家庭や地域の生活をマネジメントする能力を育てることを重視している。

従前の「家庭総合」を基に、生活の科学と環境、子どもや高齢者とのなかかわりと福祉、生活における経済の計画と消費などの内容の充実を図った。

この科目は、(1)人の一生と家族・家庭、(2)子どもや高齢者とのなかかわりと福祉、(3)生活における経済の計画と消費、(4)生活の科学と環境、(5)生涯の生活設計、(6)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の6項目で構成されている。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心として科学的かつ総合的に指導するとともに、問題解決的な学習を充実するよう配慮する。また、相互に有機的な関連を図り展開できるよう配慮する。

(1) 人の一生と家族・家庭

人の一生を生涯発達の視点でとらえ、青年期の課題、家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などを扱い、青年期の生き方を考えさせるとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのなかかわりについて理解させる。また、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。

ア 人の一生と青年期の自立

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて認識させる。また、生涯を見通して、生活課題に対応した意思決定をしていくことが重要であることを理解させる。

イ 家族・家庭と社会

現代の家族の特徴や家庭の機能について、歴史的、文化的、社会的変化との関連から理解させる。家族の人間関係については、親子関係や夫婦関係などを

取り上げ、具体的な事例や演習を通して家族関係の在り方を考えさせる。家族・家庭と法律については、婚姻、夫婦、親子等に関する法律の基礎的知識を理解させる。

また、家事労働と職業労働を取り上げ、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のための条件整備などについても考えさせる。

家庭生活と福祉については、家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的な理念について理解させるとともに、地域社会の一員として地域福祉の充実に関心をもたせ、住民相互の助け合いやボランティア活動にも触れる。

(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉

子どもの発達と保育・福祉については、子どもの発達と生活、親の役割と子育て支援、子どもの権利と福祉について理解させる。

高齢者の生活と福祉については、高齢期について関心をもたせ、高齢者が安心して生活することができるよう、個人や家族だけでなく、社会全体で支えることの必要性について認識させる。

ア 子ども発達と保育・福祉

乳幼児や小学校の低学年の児童とかかわって子どもと触れ合う機会をもつことなどにより、保育への関心を高めるとともに子どもの発達の実際の姿について理解させる。また、子どもの発達と生活、親の役割と子育て支援、子どもの権利と福祉などについて理解させ、子どもの健やかな発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について認識させる。

ここでいう「子ども」については、乳幼児だけではなく、小学校の低学年の児童までを含める。

イ 高齢者の生活と福祉

高齢者と実際に触れ合い、話すなどの体験を通して、高齢期への理解を深めるとともに、高齢者の自立生活を支えるために、個人や家族、社会が果たす役割について認識させる。また、日常生活の介助について、実習を通して体験的に理解させ、高齢者の意思の尊重や残存能力を生かす生活支援の在り方について考えさせる。さらに、施設福祉と在宅福祉が地域社会の中で互いに連携し合って役割を果たす地域福祉システムの基本的な理念を理解させ、地域社会の一員として地域福祉の充実に関心をもたせる。

ウ 共生社会における家庭や地域

多様なニーズをもった人々が、年齢や障害等の有無にかかわらず、それぞれのもてる力を生かし、共に支え合いながら、ノーマライゼーションの理念を土台とした社会をつくることが重要であることを理解させる。人と人とのネットワークや社会的制度、

さらにそれを支える生活環境の整備なども関連させて考えさせる。

アの指導に当たっては、学校や地域の実態に応じて、学校家庭クラブ活動等との関連を図り、幼稚園や保育所等の乳幼児、近隣の小学校の低学年の児童等との触れ合いや交流の機会をもつよう努める。

イについては、福祉施設等への訪問やボランティア活動への参加をはじめ、身近な高齢者との交流の機会をもつよう努める。

(3) 生活における経済の計画と消費

家計と経済社会とのかかわりを理解させ、現代の消費生活の課題について認識させるとともに、消費者として適切な意思決定に基づき責任をもって行動できるようにする。また、生涯を見通した家計管理の在り方、不測の事態に備えた経済上のリスク管理について考えさせ、持続可能な社会の実現に向けて行動できるようにする。

ア 生活における経済の計画

生活と経済のつながりについて、家計の構造や経済全体の仕組みとのかかわりを理解させ、生涯を見通した経済の計画やリスク管理の重要性について認識させる。また、キャッシュレス社会の利便性や問題点、多重債務問題について具体的な事例を通して理解させる。

イ 消費行動と意思決定

消費者が意思決定を行う際の過程について、金銭、時間、エネルギーなどの資源の適切な活用とかかわらせて考える必要があることを理解させる。また、自立した消費者となるために、財・サービスの選択に際し、生活情報を適切に収集し選択して活用できる能力を身に付けさせる。

ウ 消費者の権利と責任

経済社会の変化に伴う消費生活の変化と現状を踏まえ、消費者問題や消費者の権利と自立支援などについて理解させ、消費者として責任をもって行動できるようにする。

(4) 生活の科学と環境

乳幼児期から高齢期に至るまでの生涯を見通した各ライフステージの衣食住の生活を科学的に理解させる。また、先人の知恵や文化に関心をもたせるとともに、持続可能な社会を実現するために、資源や環境に配慮した生活を主体的に営むことができるようにする。実生活に活用できるようにすることを重視し、実験・実習を中心とした指導を行う。

ア 食生活の科学と文化

各ライフステージの食生活の特徴や課題と関連付けながら、栄養、食品、調理及び食品衛生などについて科学的に理解させる。また、食生活の文化に関

心をもたせ、調理実習を通して食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。さらに、食生活にかかわる情報を適切に判断し、安全と環境に配慮した食生活を主体的に営むことができるようにする。

イ 衣生活の科学と文化

被服の機能、着装、被服管理について、被服材料や被服の構成とかかわらせて科学的に理解させる。各ライフステージの衣生活の特徴や課題と関連付けて、快適な衣生活を営むための知識と技術を習得させるとともに、安全と環境に配慮し、主体的に衣生活を営むことができるようにする。

ここでは、身体を覆う「衣服」を中心として扱い、被服の機能と着装、人間と被服とのかかわりなどについては、衣生活の文化と関連付けて考えさせる。また、被服製作を通して、被服材料や被服の構成について理解させ、必要な技術を習得させる。さらに、消費者として既製服を入手するために必要な情報を収集し、適切な意思決定に基づいた購入ができるようにする。

ウ 住生活の科学と文化

家族の生活の場としての住居の機能、住空間の計画、住環境などについて科学的に理解させ、各ライフステージに応じた住居、人間と住居のかかわりについて考えさせるとともに、持続可能な活用をするために必要な維持管理・計画などについて関心をもたせる。また、気候や風土に応じた各地域の住居の特徴や変遷、様々な住様式などを取り上げ、住生活の文化に関心をもたせる。さらに、住生活の現状と住宅政策や法規等の基本理念などを理解させ、安全と環境に配慮し、主体的に住生活を営むことができるようにする。

エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立
経済発展や大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、様々な環境問題が生じていることを理解させ、持続可能な消費について考えさせる。生活文化を伝承・創造し、資源や環境に配慮した生活が営めるように、生活意識やライフスタイルを改め、生産や消費の方法を再考する。例えば、「もったいない」という伝統的な価値観や、「地球規模で考え、地域で行動する」(Think globally, Act locally)の意味を考えさせ、持続可能な社会を目指すことが重要であることを認識させる。

(5) 生涯の生活設計

自分の目指すライフスタイルを実現するために、経済計画も含めた生涯の生活設計に取り組ませる。その際、家族や友人、地域の人々と有効な人間関係を築くことや衣食住生活に関する知識と技術を身に付けることが生活設計の基礎となることに気付かせる。また、

生活設計を通して社会の動きを見つめ、不測の事態にも柔軟に対応する必要性や、広い視野をもって生活を創造していくことの重要性を認識させる。

「家庭総合」の学習のまとめとして最後に取り扱うことが望ましい。

ア 生活資源とその活用

生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源についての理解を深め、自らのライフスタイルを創造し、人生の目標を達成するためには、生活資源をどのように活用したらよいかを考えさせる。

イ ライフスタイルと生活設計

将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解させる。例えば、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を図ることの重要性や生活設計を具体化するための情報の集め方などについて考えさせる。また、学習した事柄とかかわらせて自分の目指すライフスタイルを実現するために生活を設計できるようにする。

(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

高等学校家庭科の特色である「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の意義と実践方法について理解させる。

ア ホームプロジェクト

ホームプロジェクトは各自の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動である。ホームプロジェクトを実践することによって、内容の(1)から(5)の学習を通して習得した知識と技術を一層定着し、総合化でき、問題解決能力と実践的態度を育てることができる。

指導に当たっては次のことに留意する。

(ア) 内容の(1)から(5)までの指導に当たっては、学習内容を各自の家庭生活と結び付けて考えさせ、常に課題意識をもたせるようにして題目を選択させる。

(イ) 課題の解決に当たっては、まず、目標を明確にして綿密な実践計画を作成させる。次に生徒の主体的な活動を重視し、教師が適切な指導・助言を行う。

(ウ) 学習活動は、計画、実行、反省・評価の流れに基づいて行い、実施過程を記録させる。

(エ) 実施後は、反省・評価をして次の課題へとつなげるとともに、成果の発表会を行う。

イ 学校家庭クラブ活動

学校家庭クラブ活動は、ホームルーム単位または家庭科の講座単位、さらに学校としてまとまって、学校や地域の生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して、グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動である。学校家庭クラブ活動を実践することによって、内容の(1)から(5)の

学習を通して習得した知識と技術を学校生活や地域の生活の場に生かすことができ、問題解決能力と実践的態度の育成はもとより、ボランティア活動などの社会参画や勤労への意欲を高めることができる。

指導に当たっては次のことに留意する。

- (ア) ホームプロジェクトを発展させ、学校生活や地域の生活を充実向上させる意義を十分理解させる。
- (イ) 家庭科の授業の一環として、計画、立案、参加させる。
- (ウ) ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間など学校全体の教育活動との関連を図るようにする。
- (エ) ボランティア活動については、地域の社会福祉協議会などとの連携を図るように工夫する。

3 「生活デザイン」

人の一生と家族・家庭及び福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を体験的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

「生活デザイン」の「デザイン」とは、人がよりよい価値に向かって行動するために計画し、考えるという意味があり、「生活デザイン」においては、生活の価値や質を高め、豊かな生活を楽しみ味わいつくる上で必要な実践力を育成することを重視している。実験・実習等の体験的学習を重視し、少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、生活の文化的な意味や価値への理解を深め、将来の生活を設計し創造する能力を育てるとともに、衣食住の生活文化に関心をもたせることに重点を置く。

この科目は、(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、(2)消費や環境に配慮したライフスタイルの確立、(3)食生活の設計と創造、(4)衣生活の設計と創造、(5)住生活の設計と創造、(6)ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の6項目で構成されている。

なお、(1)の「オ 子どもとの触れ合い」、「カ 高齢者とのコミュニケーション」、(3)の「エ 食生活のデザインと実践」、(4)の「エ 衣生活のデザインと実践」、(5)の「エ 住生活のデザインと実践」については、生徒の興味・関心や進路希望等に応じて適宜選択させ履修させる。

また、(3)、(4)、(5)については、調査、研究、観察、見学、就業体験、乳幼児や高齢者との触れ合いなどを含めた実験・実習を中心に、実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を重視して指導するよう配慮する。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉

人は各ライフステージの課題を達成しつつ発達する

という生涯発達の視点で自分自身の一生をとらえさせ、青年期、壮年期、高齢期という時間軸に沿って各ライフステージの特徴と課題を理解させる。また、自立した生活を営むための意思決定、子どもや高齢者の生活と福祉などの学習を通して、共に支え合う社会の重要性について認識させる。

ア 青年期の自立と家族・家庭

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題を見通し、男女が協力して家庭を築くことの意義や、歴史的、文化的、社会的変化との関連で現代の家族・家庭の特徴を理解させる。特に、自立した生活を営むためには、様々な生活課題に対応して適切に意思決定し、責任をもって行動することが重要であることを認識させる。ここでは、職業選択、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）などの具体的な事例を取り上げて考えさせる。

イ 子どもの発達と保育

乳幼児の心身の発達の特徴、乳幼児の遊びや生活習慣の形成などの乳幼児の生活、親や家族の保育責任について理解させる。また、子どもを生ま育てることの意義について考えさせ、子どもの健やかな成長のための家族や社会の果たす役割について認識させる。さらに、次の世代を担う子どもを健やかに育てるために、子どもと適切にかかわり、子どもとのコミュニケーション能力を高めることが重要であることを理解させる。

ウ 高齢期の生活

人の一生を見通す中で高齢期をとらえ、加齢に伴う心身の変化や特徴を理解させる。また、高齢期になっても、だれもが安心して自立的な生活を送ることができる高齢社会を築くために、個人や家族、地域及び社会の果たす役割について考えさせる。

エ 共生社会と福祉

生涯を通してだれもが自分の力を生かし、他からの援助も得ながら安心して暮らせる社会をつくることの重要性を認識させ、各ライフステージにどのような福祉や社会的支援が必要かを考えさせる。また、多様なニーズをもった人々がそれぞれの特徴を生かしながら共に支え合う社会を実現するために、個人や集団がどのような役割を果たし、つながっていけばよいかを考えさせる。

オ 子どもとの触れ合い

乳幼児や小学校の低学年の児童と触れ合い、かかわることや、乳幼児と親がかかわる姿を観察するなどの体験的な学習を通して、保育への関心をもたせるとともに、子どもの生活と遊びについて理解させる。また、子どもは生活の中で人とのかかわりを通して育つことを理解させ、子どもと適切にかかわる

ことができるようにする。さらに、育てる側の視点も取り入れて、子どもを生み育てることは楽しみであるとともに、子どもの気持ちに寄り添うという気づきも必要であることを理解させる。

カ 高齢者とのコミュニケーション

高齢者との交流や日常生活の介助などを体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立的な生活を支援することの意味やコミュニケーションの重要性について理解させる。また、体験活動後の省察等を通して、高齢者やそれを取り巻く社会の課題について理解させるとともに、高齢者の自己決定や残存能力を尊重する支援の在り方についても考えさせる。

オヤカについてはもちろんのこと、イおよびウの指導に当たっても、学校家庭クラブ活動等との関連を図り地域の実態に応じて、乳幼児や高齢者との触れ合いや交流などの実践的・体験的な学習活動を取り入れるように努める。

(2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立

経済社会の変化に伴う消費生活の変化と現状を踏まえ、消費者の権利と責任を自覚して行動できるようにする。また、自立した生活を営むために必要な経済の計画やリスク管理に関する知識と技術を習得させ、環境に配慮したライフスタイルについて考えさせるとともに、主体的に生活を設計することができるようにする。

ア 消費生活と生涯を見通した経済の計画

社会の変化に伴う消費構造の変化や消費行動の多様化などの現状や課題について認識させ、様々な消費者問題などについて理解させる。消費者の権利や責任については、契約や消費者信用、多重債務問題などを具体的に理解させ、消費者として適切な判断ができるようにする。また、生涯を見通した経済の計画やリスク管理について考えることができるようにする。

イ ライフスタイルと環境

経済発展や大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、様々な環境問題が生じていることに気付かせ、消費生活と環境とのかかわりについて理解させる。自らの消費行動によって環境負荷を低減させ、進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践するなど環境負荷の少ない生活の工夫について考えさせ、生活意識やライフスタイルを見直すことができるようにする。

ウ 生涯の生活設計

将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を認識させ、自分の目指すライフスタイルを実現するために生活設計を立てさせる。生活設計を通して社会の動きを見つめ、不測の

事態にも柔軟に対応する必要性や、広い視野をもって生活を創造していくことの重要性について認識させる。

(3) 食生活の設計と創造

生涯を通して健康の保持増進を図るために、食事と健康とのかかわりや栄養、食品、調理、食べ物のおいしさなど食生活に関する知識と技術を実験・実習を中心とした学習指導により習得させる。また、食文化に関心をもちせるとともに、安全と環境に配慮した食生活を主体的に営むことができるようにする。

ア 家族の健康と食事

食事の栄養的、精神的な意義を理解させ、家族の健康を維持するための食事と栄養や調理とのかかわりを理解させるとともに、生涯を通して健康に配慮した家族の食生活を管理できるようにする。

イ おいしさの科学と調理

食べ物のおいしさの要素と五感とのかかわりを理解させ、食品の栄養的特質と調理上の性質について科学的に理解させるとともに、栄養とおいしさ考えた食べ物や食事を整えることができるようにする。

ウ 食生活と環境

食品の腐敗や変敗、食中毒など食生活の安全と衛生について理解させ、食料の生産や流通と食生活とのかかわりや安全で環境に配慮した食生活の在り方を考えさせる。

エ 食生活のデザインと実践

日常の食事や行事食における食の歴史や文化などについて理解させ、必要な知識と技術を習得させるとともに、調理実習を通して食文化を継承し食生活を創造的に実践することができるようにする。

(4) 衣生活の設計と創造

被服の機能、着装、被服管理、被服製作について、被服材料や被服の構成とかわらせて体験的に理解させ、衣生活を主体的に営むことができるようにする。身体を覆う「衣服」を中心として扱い、被服材料や被服管理、被服製作の基本的な知識と技術を習得させるとともに、現代の衣生活にかかわる情報を日常生活に活用できるようにする。

被服製作の題材の選定に当たっては、ものづくりの発想を重視し、生活の質を向上させる楽しさや達成感が味わえるようにする。

ア 装いの科学と表現

被服の機能が、被服材料の性能や被服の構成及び人の心理面とかわることを理解させ、適切な被服の選択ができるようにする。また、装いには、衣文化に基づいた習慣があることを理解させ、装うことによって自己表現ができることや、他者へ様々な印象を与えることなどを認識させる。

イ 被服の構成と製作

平面構成である和服と立体構成である洋服の構成上の特徴や被服材料，着装の特徴を理解させるとともに，創造性を生かした被服製作ができるようにする。

ウ 衣生活の管理と環境

被服の入手，洗濯，保管など，衣生活を自ら管理し，実生活に活用するための知識と技術を習得させる。また，資源の有効利用を考えた被服計画の必要性を理解させる。

エ 衣生活のデザインと実践

人間と被服のかかわりについて着衣動機の諸説，衣文化の変遷などから考えさせ，衣生活を営むために必要な知識と技術を習得させる。また，布を使った伝統的な生活の工夫に関心をもたせ，現代に生かす工夫について考えさせる。さらに，既製服の生産と流通について理解させ，循環型社会の持続に配慮した衣生活の在り方を考えさせるなど，衣生活にかかわる課題を取り上げ，実習を通して実践的に取り組むことができるようにする。

(5) 住生活の設計と創造

健康で安全な住生活を営むための住居の機能，家族の生活と住空間の在り方，快適な住空間を設計する上で必要な住居やインテリアの計画に関する知識と技術を習得させ，生涯を見通して環境に配慮した住生活を主体的に営むことができるようにする。

ア 家族の生活と住居

人間の生活行為と家族のコミュニケーションの器としての住居の機能と住宅の耐久性を高めて長期使用するための維持管理の重要性について理解させる。また，家族のライフステージやライフスタイルと住空間の在り方について考えさせ，バリアフリーデザインやユニバーサルデザインなど，生涯を通じて暮らしやすい住空間の在り方について関心をもたせる。

イ 快適さの科学と住空間の設計

安全で健康に配慮した耐久性の高い快適な住居を実現するために必要な住居の機能を科学的に理解させる。また，インテリアや園芸などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに，快適で機能的な住生活を営むために必要な平面計画やインテリア計画ができるようにする。

ウ 住居と住環境

住生活は，自然環境や社会環境，地域などにかかわることを理解させ，集まって住むためのよりよい住環境や住居を取り巻くコミュニティについて考えさせる。また，資源・環境などに配慮した住生活を営むことができるようにする。

エ 住生活のデザインと実践

住生活と住居の歴史の変遷や文化などについて理解させ，住生活を営むために必要な知識と技術を習得させるとともに，住文化を継承し，創造していくことに関心をもたせる。また，現代の住生活の現状，住宅や住環境などにかかわる問題解決に向けて課題を取り上げ，実習を通して実践的に取り組むことができるようにする。

(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

高等学校家庭科の特色である「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の意義と実践方法について理解させる。

ア ホームプロジェクト

ホームプロジェクトは各自の生活の中から課題を見だし，課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動である。ホームプロジェクトを実践することによって，内容の(1)から(5)の学習を通して習得した知識と技術を一層定着し，総合化でき，問題解決能力と実践的態度を育てることができる。

指導に当たっては次のことに留意する。

(ア) 内容の(1)から(5)までの指導に当たっては，学習内容を各自の家庭生活と結び付けて考えさせ，常に課題意識をもたせるようにして題目を選択させる。

(イ) 課題の解決に当たっては，まず，目標を明確にして綿密な実践計画を作成させる。次に生徒の主体的な活動を重視し，教師が適切な指導・助言を行う。

(ウ) 学習活動は，計画，実行，反省・評価の流れに基づいて行い，実施過程を記録させる。

(エ) 実施後は，反省・評価をして次の課題へとつなげるとともに，成果の発表会を行う。

イ 学校家庭クラブ活動

学校家庭クラブ活動は，ホームルーム単位又は家庭科の講座単位，さらに学校としてまとまって，学校や地域の生活の中から課題を見だし，課題解決を目指して，グループで主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動である。学校家庭クラブ活動を実践することによって，内容の(1)から(5)の学習を通して習得した知識と技術を学校生活や地域の生活の場に生かすことができ，問題解決能力と実践的態度の育成はもとより，ボランティア活動などの社会参画や勤労への意欲を高めることができる。

指導に当たっては次のことに留意する。

(ア) ホームプロジェクトを発展させ，学校生活や地域の生活を充実向上させる意義を十分理解させる。

(イ) 家庭科の授業の一環として，計画，立案，参加させる。

(ウ) ホームルーム活動，生徒会活動，学校行事，総合的な学習の時間など学校全体の教育活動との関連を

図るようにする。

- (エ) ボランティア活動については、地域の社会福祉協議会などとの連携を図るように工夫する。

第3 指導計画の作成

1 指導計画作成の手順

(1) 科目の設定

各学校においては、学習指導要領の趣旨を十分理解し、学校や生徒の実態等に応じて科目の設定を行う。

普通科等において選択科目を設定する場合には、生徒・学校・地域の実態を考慮し、専門教科「家庭」の各科目等のうち適切なものを設定することが望ましい。

(2) 事前研究

教科の性格、目標を把握し、教育課程の中での教科の位置付けを明確にしておく。関連のある他教科との相違について理解しておく。

(3) 指導内容の充実

基礎的・基本的内容の重視、実践的・体験的な学習活動の充実、男女共同参画社会、少子高齢社会への対応、持続可能な社会を目指した消費者教育、生徒の問題解決能力の育成等、基本的な視点から総合的に検討し、指導内容の充実を図る。

2 指導計画作成上の留意事項

全体的配慮事項は、高等学校学習指導要領第1章総則第5款の3に示されている。各科目の配慮事項については、第2章「各学科に共通する各教科」第9節「家庭」第3款において示している。

(1) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活デザイン」のいずれの科目にも「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」が内容として示されている。ホームプロジェクト並びに学校家庭クラブ活動を活用して、問題解決的な内容の充実を図る。ホームプロジェクトについては、その科目の授業時数の10分の2以内をこれに充てることができる。

指導計画の作成に当たっては、指導する内容と関連させて、ホームプロジェクトの題目設定や実施・評価を行わせるなど、その内容や時間配当を工夫し、学習効果を上げるように配慮する。ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間など学校全体の活動や、「埼玉の子ども70万人体験活動」の実践的活動との関連を図る。その際、埼玉県高等学校家庭クラブ連盟と連携を図ることが望ましい。

(2) 各科目についての配慮事項

ア 「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活デザイン」の各科目に相当する総授業時数のうち、原則として10分の5以上を、校外における乳幼児や高齢者との触れ合い、交流活動などの内容を含む実験・実習に

相当する。

イ 実験・実習を行うに当たっては、施設・設備の安全管理や衛生管理を徹底するとともに、生徒の学習意欲を喚起するよう、資料・模型、視聴覚機器、情報通信機器などを整備し、学習環境を整えることが大切である。

ウ 「家庭基礎」については、次のとおり取り扱う。

(ア) 原則として、同一年次で履修させる。

(イ) 必履修科目としての基本的な性格を踏まえ、基礎的な学習内容で構成される標準単位2単位の科目であるので、できるだけ低学年で履修させることが望ましい。

エ 「家庭総合」及び「生活デザイン」については、次のとおり取り扱う。

(ア) 複数の年次にわたって分割して履修させる場合には、原則として、例えば第1学年と第2学年など連続する2か年において履修させる。

(イ) 必履修科目としての基本的な性格を踏まえて構成される標準単位4単位の科目であるので、できるだけ低学年で履修させることが望ましい。

オ 各科目の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図り、生活にかかわる外部の様々な情報の収集・活用やデータの整理等の各場面において、学習の効果を高めるようにする。

カ 生徒が自分の生活に結び付けて学習できるよう、問題解決的な学習を充実する。

各項目の学習と「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」との関連を図り、学習効果を上げるようにするとともに、計画的、系統的に取り扱うよう、指導計画に位置付けておくことが必要である。

キ 中学校の技術・家庭科と関連を図る。

その際、具体的な事例や実験・実習などの実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を通して理解させるよう配慮するとともに、全体として調和のとれた指導が行われるよう留意する。

ク 公民科及び保健体育科等との関連を図るとともに、家庭科の目標に即した調和のとれた指導を図る必要がある。

(3) 小学校家庭科、中学校技術・家庭科との関連

小学校家庭科、中学校技術・家庭科家庭分野、及び高等学校家庭科については、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善が図られた。

「自己と家庭、家庭と社会とのつながり」という空間軸の視点と、小学校では「自分の成長を理解する」、中学校では「これからの生活を展望する」、高等学校で

は「生涯を見通す」という連続した時間軸の視点をもって指導し、小・中・高等学校の内容の体系化を図ることを重視している。

特に、小学校家庭科と中学校技術・家庭科家庭分野は右の表のようにAからDの同じ枠組みをもつ4つの内容に再構成された。中学校の選択科目は、「生活の課題と実践」に関する内容のみとなり、学習の連続性や系統性が重視されている。

小学校家庭科では、家族の一員として成長する自分を肯定的にとらえ、家庭生活と家族の大切さに気付くことや、家族とかかわりながら、日常生活に必要な技能を身に付けるなど、生活的な自立の基礎となる資質や能力の育成を図りながら、楽しく豊かな生活ができるようにすることを目指している。家庭生活を総合的にとらえる視点から、家族の生活と関連させながら衣食住などの内容を取り扱うことを重視し、次の4つの内容から構成されている。

- A 家庭生活と家族
- B 日常の食事と調理の基礎
- C 快適な衣服と住まい
- D 身近な消費生活と環境

中学校技術・家庭科家庭分野では、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることを目指している。中学生としての自己の生活の自立を図る視点から、学習した知識・技術が生徒自らの生活に生かされることを重視し、次の4つの内容で構成されている。

- A 家族・家庭と子どもの成長
- B 食生活と自立
- C 衣生活・住生活と自立
- D 身近な消費生活と環境

○ 小学校 家庭科

A 家庭生活と家族
(1) 自分の成長と家族 (2) 家庭生活と仕事 (3) 家族や近隣の人々とのかかわり
B 日常の食事と調理の基礎
(1) 食事の役割 (2) 栄養を考えた食事 (3) 調理の基礎
C 快適な衣服と住まい
(1) 衣服の着用と手入れ (2) 快適な住まい方 (3) 生活に役立つ物の製作
D 身近な消費生活と環境
(1) 物や金銭の使い方と買物 (2) 環境に配慮した生活の工夫

○ 中学校 技術・家庭科 家庭分野

A 家族・家庭と子どもの成長
(1) 自分の成長と家族 (2) 家庭と家族関係 (3) 幼児の生活と家族
B 食生活と自立
(1) 中学生の食生活と栄養 (2) 日常食の献立と食品の選び方 (3) 日常食の調理と地域の食文化
C 衣生活・住生活と自立
(1) 衣服の選択と手入れ (2) 住居の機能と住まい方 (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫
D 身近な消費生活と環境
(1) 家庭生活と消費 (2) 家庭生活と環境

第4 指導上の留意点

(1) 職業資格等の取得

現在、様々な職業資格がある。生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的技術を定着させる上からも積極的に活用することが望ましい。

特に、基礎・基本の定着を図る上では、全国高等学校家庭科技術検定の活用などが考えられる。

家庭科教育は、実践的・体験的学習を重視し、家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせることを目標としている。全国高等学校家庭科技術検定は、基礎的・基本的な被服製作や調理の技術、保育技術の定着を図るための指導法として全国規模で開発されたものである。いずれも文部科学省後援となっており、学習指導要領に準拠して内容の基準が定められている。

資格取得を目指すことによって、生徒に基礎的・基

本的な知識と技術の習得を図り、成就感や達成感を味わう経験をさせることにより、個性・能力の伸長を図ることが望まれる。

「家庭」に関する資格のうち、代表的なものを示す。

技能審査(例)

全国高等学校家庭科被服製作技術検定	1～4級
全国高等学校家庭科食物調理技術検定	1～4級
全国高等学校家庭科保育技術検定	1～4級
手話講習会	入門～上級
赤十字救急法	修了

出典：「平成22年埼玉県高校生専門資格等取得表彰奨励事業要項」による

なお、高等学校において設けられている教科・科目の学習内容に対応する資格を取得した場合、学校外の学修の単位として認めることができる。

(2) 埼玉県高等学校家庭クラブ連盟との連携

「学校家庭クラブ活動」は学習指導要領に位置付けられた教科の内容であり、家庭科の学習の発展として行う生徒主体の問題解決的な学習活動である。グループや学校単位で活動し、個人で取り組む「ホームプロジェクト」と相互の関連を図りながら実践する活動である。学校家庭クラブ活動の実践により、現代社会に求められる「心」と「力」が養われる。

問題解決能力の育成や、地域に対するボランティア活動を一層重視する観点から、各学校における学校家庭クラブ活動を推進し、充実・発展させるよう配慮することが必要である。さらに、埼玉県高等学校家庭クラブ研究発表大会、全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座、全国高等学校家庭クラブ発表大会等への参加・交流により、学校家庭クラブ活動の充実・発展に努めることが望ましい。

(図1、図2、図3参照)

図1 学校家庭クラブ活動の組織(例)

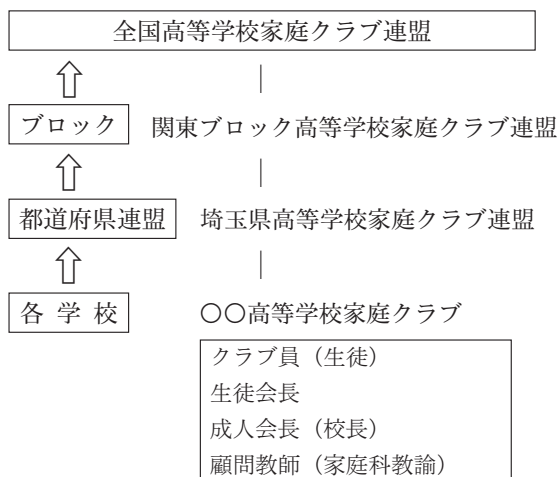


図2 各学校での活動例

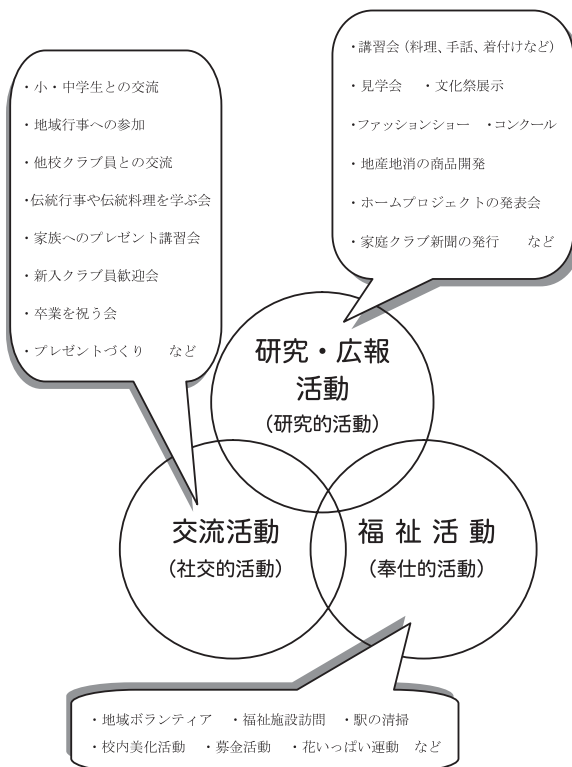
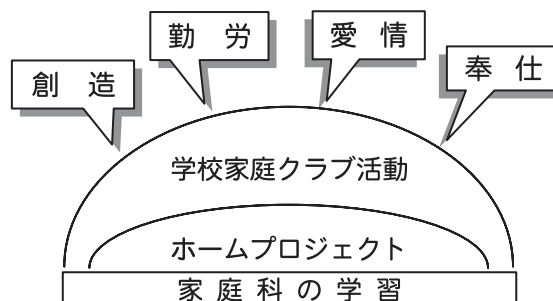


図3 学校家庭クラブ活動



(3) 他の教育機関・施設との連携

指導に当たっては、調査、研究、観察、見学も含む実践的・体験的な学習活動を重視するために、指導計画に取り入れ、地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域社会との連携を深めるよう配慮する。また、図書館の利用や、他の高等学校、小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園、保育所、児童館、高齢者施設等を訪問し、触れ合いや交流などの体験的な学習活動を取り入れるようにする。例えば、地域の各施設との連携を図り、「保育体験学習」「介護体験学習」のような実際に触れ合う学習の機会と場の確保に努める。

「家庭基礎」指導内容

指 導 内 容	指 導 要 点
<p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉</p> <p>ア 青年期の自立と家族・家庭</p> <p> (ア) 青年期の自立</p> <p> (イ) 生活と意思決定</p>	<p>*生涯発達の視点で自分自身の一生をとらえ、青年期、壮年期、高齢期という時間軸に沿った各ライフステージの特徴と課題を理解させる。</p> <p>・青年期の課題（自己理解、心身の自立や生活者としての自立、人間関係の調整、職業選択への見通しや準備、男女の平等と相互の協力など）</p> <p>・生活課題に対応した意思決定（職業選択、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）など）</p> <p>・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味</p>
<p>イ 子どもの発達と保育</p> <p> (ア) 子どもの生活と家族・家庭</p> <p> (イ) 子どもの育つ環境</p>	<p>*学校家庭クラブ活動等との関連を図り、幼稚園や保育所等を訪問して実際に乳幼児との触れ合いや交流をしたり、乳幼児をもつ親が子どもとかかわる姿を観察したりするなど、実践的・体験的な学習活動を取り入れる。</p> <p>*子どもの発達を支えるための親の役割や子育てを支援する環境に重点を置く。</p> <p>*生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本理念に重点を置く。</p> <p>・乳幼児の生活（遊び、生活習慣の形成、食事、健康管理と安全など）</p> <p>・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題</p> <p>・保育の場（家庭や幼稚園、保育所等）、保育環境の特徴や役割</p> <p>・児童福祉の理念（「児童憲章」「児童福祉法」「児童の権利に関する条約」など）</p>
<p>ウ 高齢期の生活</p> <p> (ア) 高齢期の特徴と生活</p> <p> (イ) 高齢社会を生きる</p>	<p>*学校家庭クラブ活動等との関連を図り、高齢者との触れ合いや交流などの実践的・体験的な学習活動を取り入れる。</p> <p>*生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本理念に重点を置く。</p> <p>*人の一生を見通しながら人生の一時期として高齢期をとらえる。</p> <p>・身近な高齢者からの聞き取り（生きがい、社会参加、健康問題と介護、生計の維持など）</p> <p>・超高齢社会を迎えることに対して、現状と今後の解決すべき課題</p>
<p>エ 共生社会と福祉</p> <p> (ア) 家族・家庭と社会的支援</p> <p> (イ) 共生とコミュニティ</p>	<p>*生徒の居住する地域で実際に行われている取組について、具体的な事例を通して検討させるとともに、生徒自身が家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性を認識して、何ができるかを考えさせる。</p> <p>*生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本理念に重点を置く。</p> <p>・生活を外部から支える様々な社会的支援の概要</p> <p>・ノーマライゼーションの理念</p>
<p>(2) 生活の自立及び消費と環境</p> <p>ア 食事と健康</p> <p> (ア) 栄養と食事</p> <p> (イ) 食品と調理</p>	<p>*実験・実習を中心とした学習活動を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。</p> <p>*栄養、食品、調理、食品衛生の学習を相互に関連付け扱う。</p> <p>*調理実習の目的を明確にし、生徒の実態に応じて調理技術の定着を図り、実践への意欲を高めるよう配慮する。題材については、高校生の自立につながる日常食とし、様式や調理法、食品が重ならないようにする。</p> <p>・青年期における毎日の食事の重要性</p> <p>・食事摂取基準、食品群別摂取量のめやすとその活用</p> <p>・現代の食生活の問題点（栄養の過多・過小、食事の規則性、食料自給率の低下、加工食品、外食、中食への依存など）</p> <p>・日常用いられる食品の栄養的特質と調理上の性質、調理による変化</p> <p>・安全・衛生に配慮した調理実習</p> <p>・食生活の安全・衛生</p> <p>・配膳や食事マナー</p>

<p>イ 被服管理と着装</p> <p>(ア) 被服の機能と着装</p> <p>(イ) 被服の管理と計画</p>	<p>*実験・実習を中心とした学習活動を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。</p> <p>*高校生の着装に対する関心と衣生活の実態に即した扱いに留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能と被服材料の性能や被服の構成とのかかわり ・社会的慣習に適応し、自己を表現する着装の工夫 ・購入を中心とした被服材料、被服の構成、サイズの適切な選択 ・被服材料の性能や被服の構成に適した洗濯（組成表示、家庭用品品質表示、取扱い絵表示など） ・湿式洗濯（ランドリー）と乾式洗濯（ドライクリーニング）の特徴 ・資源の有効活用の観点から、購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄までを考えた被服計画の必要性
<p>ウ 住居と住環境</p> <p>(ア) 住居と家族の生活</p> <p>(イ) 安全で環境に配慮した住生活</p>	<p>*環境に配慮した住生活を目指し、住居の機能、住居と地域社会とのかかわりに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の生活と各ライフステージに応じた住居の条件 ・安全性（防火、防犯、耐震など）や健康に配慮した住まい方（日照、採光、換気、遮音、温熱・空気環境など） ・障害者、高齢者などに配慮したバリアフリー住宅 ・地域コミュニティと共生できる住居の在り方
<p>エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画</p> <p>(ア) 消費者問題と消費者の権利</p> <p>(イ) 生涯の経済計画とリスク管理</p>	<p>*契約、消費者信用、多重債務問題などを取り上げ、具体的に扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題の発生と社会的背景 ・契約、消費者信用、多重債務問題など ・消費者基本法（消費者の権利、消費者支援の諸制度） ・消費者の責任と権利、消費者保護に関する施策 ・経済計画の必要性和リスクへの対応
<p>オ ライフスタイルと環境</p> <p>(ア) 消費生活と環境のかかわり</p> <p>(イ) 環境負荷の少ない生活への取組</p>	<p>*環境負荷の少ない生活の工夫に重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の消費行動と家族や地域社会における消費総量の問題との関連についての具体的事例 ・進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルの実践 ・環境問題に配慮する製品の選択、購入、使用方法や生活の仕方などの点検 ・国際標準化機構など（ISO9000品質管理、ISO14001環境管理）の理解
<p>カ 生涯の生活設計</p>	<p>* (1)及び(2)のAからオまでの内容との関連を図って、「家庭基礎」の学習のまとめとして扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容とかかわらせて自分の目指すライフスタイルを実現するための生活設計の立案
<p>(3) ホームプロジェクトと学校 家庭クラブ活動</p>	<p>*内容の(1)及び(2)の学習の発展として扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の問題解決的な学習活動 ・生活課題を見だし、課題解決のための計画、実行、反省・評価（Plan-Do-See） ・ボランティア活動など地域社会とのつながり ・成果の発表会（思考力・判断力・表現力）

*は、指導上の留意点等

・は、指導項目

「家庭総合」指導内容

指 導 内 容	指 導 要 点
<p>(1) 人の一生と家族・家庭</p> <p>ア 人の一生と青年期の自立</p> <p> (ア) 人の一生と発達課題</p> <p> (イ) 青年期の課題</p> <p> (ウ) 生活の自立を目指す上での意思決定</p>	<p>*人の一生を生涯発達の視点でとらえ、男女共同参画社会の実現を推進し、男女が協力して家庭を築くことの重要性を認識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の視点で乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、高齢期などの各ライフステージの特徴と課題 ・青年期の課題（自己理解、心身の自立や生活者としての自立、人間関係の調整、職業選択への見通しや準備、男女の社会的役割の理解など） ・自立した生活を営むための適切な意思決定（さまざまな価値観やライフスタイル）
<p>イ 家族・家庭と社会</p> <p> (ア) 家庭の機能と家族関係</p> <p> (イ) 家庭生活と社会</p>	<p>*家族の特徴や機能について歴史的、文化的、社会的変化との関連から理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子関係や夫婦関係などの人間関係 ・家族関係の在り方の具体的事例や演習 ・家族・家庭に関する法律（婚姻、夫婦、親子など）の基礎 ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス） ・家事労働と職業労働の意義と特徴、現状と課題 ・家庭生活を支える社会制度や社会福祉の基本的な理念 ・地域福祉の充実やボランティア活動について
<p>(2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉</p> <p>ア 子どもの発達と保育・福祉</p> <p> (ア) 子どもとかかわる</p> <p> (イ) 子どもの発達と生活</p> <p> (ウ) 親の役割と子育て支援</p> <p> (エ) 子どもの権利と福祉</p>	<p>*学校家庭クラブ活動等との関連を図り、幼稚園や保育所等の乳幼児、近隣の小学校の低学年の児童等との触れ合いや交流をしたり、乳幼児をもつ親が子どもとかかわる姿を観察するなど、実践的・体験的な学習活動を中心とする。</p> <p>*子どもの発達を支える親の役割や子育てを支援する環境に重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児や小学校の低学年の児童の実際の姿に触れたり、乳幼児とかかわる親の姿の観察 ・遊びの意義や児童文化の子どもへの影響 ・家庭保育と集団保育、発達と環境 ・「愛着」の形成 ・親が保育責任を果たすための社会における支援の在り方 ・児童福祉の理念（「児童憲章」「児童福祉法」「児童の権利に関する条約」など）
<p>イ 高齢期の生活と福祉</p> <p> (ア) 高齢者とかかわる</p> <p> (イ) 高齢者の生活と課題</p> <p> (ウ) 人間の尊厳とケア</p> <p> (エ) 高齢社会の現状と社会福祉</p>	<p>*学校家庭クラブ活動等との関連を図り、福祉施設等への訪問やボランティア活動への参加をはじめ、身近な高齢者との交流の機会をもつよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者を訪問又は学校への招待、福祉施設等への訪問 ・身近な高齢者からの聞き取り（生きがい、社会参加、健康問題と介護、生計の維持など） ・高齢社会の現状と課題 ・人生を全うするためのケアの在り方（人間としての尊厳、残存能力の発揮） ・日常生活の介助（食事、着脱衣、移動など） ・高齢者福祉の基本的理念（自立生活を支える制度・環境） ・地域福祉システムの基本的な理念（施設福祉・在宅福祉）
<p>ウ 共生社会における家庭や地域</p>	<p>*生徒の居住する地域で実際に行われている取組について、具体的な事例を通して検討させるとともに、生徒自身が家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性を認識して、何ができるかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの理念 ・人と人とのネットワークや社会的制度

<p>(3) 生活における経済の計画と消費</p> <p>ア 生活における経済の計画</p> <p>ア) 家計と経済</p> <p>イ) 資金管理とリスク</p> <p>ウ) キャッシュレス社会とその課題</p>	<p>*家庭の経済生活の諸課題について具体的に扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活行動と経済とのかかわり ・今日の家計の特徴（統計資料等の活用） ・家計管理の基本と不測の事態にかかわるリスク管理の方法（ローン、クレジットの利用、貯蓄、保険、株式など） ・年金や保険を含めた経済計画 ・キャッシュレス社会の利便性と問題点 ・消費者信用の利用に伴う金利負担、多重債務問題
<p>イ 消費行動と意思決定</p> <p>ア) 消費者の意思決定とその重要性</p> <p>イ) 生活情報の収集・選択と活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者が意思決定を行う過程（問題の自覚、情報収集、解決策の比較検討、決定、評価など） ・意思決定と金銭、時間、エネルギーなどの資源の適切な活用とのかかわり ・様々な生活情報の特徴や課題 ・財・サービスを購入する際の生活情報の適切な活用
<p>ウ 消費者の権利と責任</p> <p>ア) 社会の変化と消費生活</p> <p>イ) 消費者問題の現状と課題</p> <p>ウ) 消費者の権利と自立支援</p>	<p>*契約、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを取り上げて具体的に扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活の現状（商品・サービスの流通や販売方法の多様化、複雑化、地球環境や資源、エネルギー、大量廃棄の問題や消費行動の変化など） ・消費者問題の発生と被害の防止、救済 ・契約（売買契約）、問題のある販売方法への対応 ・表示偽装、製品事故 ・消費者基本法（消費者の権利、消費者支援の諸制度） ・消費者としての責任と行動
<p>(4) 生活の科学と環境</p> <p>ア 食生活の科学と文化</p> <p>ア) 人の一生と食事</p> <p>イ) 食生活の自立と調理</p> <p>ウ) 食生活の文化</p> <p>エ) 食生活と環境</p>	<p>*実験・実習を中心とした指導を行う。</p> <p>*調理題材は中学校での学習を踏まえ生徒や地域の実態を考慮し、高校生の食生活の自立に向けて毎日の食事に活用できることや、実践への意欲を高めることができるよう配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ライフステージにおける食生活の課題（特に青年期の食事の重要性） ・青年期の食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすの活用 ・家族の栄養や嗜好、調理の能率、経済面を考慮した毎日の献立作成 ・食品の腐敗、食中毒、食品添加物 ・食品の鑑別、保存、管理 ・日常用いられる食品の栄養的特質と調理上の性質 ・調理による色、味、テクスチャーの変化（科学的に理解させる） ・各調理法の特徴（科学的に理解させる） ・安全・衛生に配慮した調理実習 ・行事食や郷土食、地域の気候風土で培われた伝統的な加工食品、食文化の継承 ・資源、エネルギーに配慮した購入、調理、保存 ・生産から消費に至る過程における食の安全・衛生（フードマイレージ、地産地消）
<p>イ 衣生活の科学と文化</p> <p>ア) 人の一生と被服</p> <p>イ) 衣生活の自立と管理</p> <p>ウ) 衣生活の文化と製作</p> <p>エ) 衣生活と環境</p>	<p>*実験・実習を中心とした指導を行う。</p> <p>*身体を覆う「衣服」を中心として扱う。</p> <p>*生徒の技術や興味・関心に応じて、衣服の製作につながる縫製技術を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被服の社会的機能を生かした着装の工夫 ・購入を中心とした被服材料、被服の構成、サイズの適切な選択 ・天然繊維や化学繊維の特徴 ・被服材料の性能や被服の構成に適した洗濯（組成表示、家庭用品品質表示、取扱絵表示など） ・湿式洗濯（ランドリー）と乾式洗濯（ドライクリーニング）の特徴 ・平面構成である和服と立体構成である洋服の構成上の特徴や被服材料、着装の特徴 ・布を使った伝統的な生活の文化を現代に生かす工夫 ・資源の有効活用の観点から、購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄までを考えた循環型の被服計画の必要性

*は、指導上の留意点等

・は、指導項目

<p>ウ 住生活の科学と文化</p> <p>(ア) 人の一生と住居</p> <p>(イ) 住生活の計画と選択</p> <p>(ウ) 住生活の文化</p> <p>(エ) 住生活と環境</p>	<p>*平面図やインテリアデザインなどの課題を通して、生活の質を高め、機能的な住生活の計画ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族構成や各ライフステージに応じた住居 ・人間と住居のかかわり ・住居の平面図，インテリアデザイン ・住居の維持管理，長期使用の必要性 ・気候や風土に応じた各地域の住居の特徴や変遷，様々な住様式 ・自然環境，社会環境と調和した住居の環境
<p>エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立</p> <p>(ア) 持続可能な消費</p> <p>(イ) 環境保全に向けたライフスタイルの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化による，消費社会の現状と地球環境への影響 ・環境負荷を低減するための消費行動，購買行動 ・国際標準化機構など（ISO9000品質管理，ISO14001環境管理）の理解 ・資源の有限性を前提とした廃棄型社会の見直しと，ものを大切にする生活観・進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルの実践
<p>(5) 生涯の生活設計</p> <p>ア 生活資源とその活用</p>	<p>* (1)から(4)までの学習の中で段階的に扱ったり、「家庭総合」の学習のまとめとして扱ったりするなどの工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活資源（家族，友人，健康，金銭，もの，空間，技術，時間，情報など）の活用 ・社会保障制度や社会福祉の基本理念とその内容
<p>イ ライフスタイルと生活設計</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己のライフスタイルや将来の家庭生活と職業生活の在り方 ・生活設計を具体化するための情報収集 ・異世代の人々との交流や友人との討議等
<p>(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<p>* 内容の(1)から(5)までの学習の発展として扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の問題解決的な学習活動 ・生活課題を見いだし，課題解決のための計画，実行，反省・評価（Plan-Do-See） ・ボランティア活動など地域社会とのつながり ・成果の発表会（思考力・判断力・表現力）

*は、指導上の留意点等

・は、指導項目

「生活デザイン」指導内容

指 導 内 容	指 導 要 点
<p>(1) 人の一生と家族・家庭および福祉</p> <p>ア 青年期の自立と家族・家庭</p> <p>(ア) 青年期の自立</p> <p>(イ) 生活と意思決定</p>	<p>*生涯発達の視点で自分自身の一生をとらえ、青年期、壮年期、高齢期という時間軸に沿った各ライフステージの特徴と課題を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題（自己理解、心身の自立や生活者としての自立、人間関係の調整、職業選択への見通しや準備、男女の平等と相互の協力など） ・生活課題に対応した意思決定（職業選択、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）など） ・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味
<p>イ 子どもの発達と保育</p> <p>(ア) 子どもの生活と家族・家庭</p> <p>(イ) 子どもの育つ環境</p>	<p>*学校家庭クラブ活動等との関連を図り、幼稚園や保育所等を訪問して実際に乳幼児との触れ合いや交流をしたり、乳幼児をもつ親が子どもとかかわる姿を観察したりするなど、実践的・体験的な学習活動を取り入れる。</p> <p>*子どもの発達を支えるための親の役割や子育てを支援する環境に重点を置く。</p> <p>*生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本理念に重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の生活（遊び、生活習慣の形成、食事、健康管理と安全など） ・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題 ・保育の場（家庭や幼稚園、保育所等）、保育環境の特徴や役割 ・児童福祉の理念（「児童憲章」「児童福祉法」「児童の権利に関する条約」など）
<p>ウ 高齢期の生活</p> <p>(ア) 高齢期の特徴と生活</p> <p>(イ) 高齢社会を生きる</p>	<p>*学校家庭クラブ活動等との関連を図り、高齢者との触れ合いや交流などの実践的・体験的な学習活動を取り入れる。</p> <p>*生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本理念に重点を置く。</p> <p>*人の一生を見通しながら人生の一時期として高齢期をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な高齢者からの聞き取り（生きがい、社会参加、健康問題と介護、生計の維持など） ・超高齢社会を迎えることに対して、現状と今後の解決すべき課題
<p>エ 共生社会と福祉</p> <p>(ア) 家族・家庭と社会的支援</p> <p>(イ) 共生とコミュニティ</p>	<p>*生徒の居住する地域で実際に行われている取組について、具体的な事例を通して検討させるとともに、生徒自身が家庭や地域及び社会の一員として共に支え合って生活することの重要性を認識して、何ができるかを考えさせる。</p> <p>*生涯にわたって家族・家庭の生活を支える福祉の基本理念に重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を外部から支える様々な社会的支援の概要 ・ノーマライゼーションの理念
<p>オ 子どもとの触れ合い</p> <p style="text-align: right;">適宜選択</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育所等を訪問して幼児と一緒に遊んだり、絵本の読み聞かせをしたり、幼児を学校に招いて簡単な調理を行ったり、近隣の乳幼児をもつ親子を学校に招くなど ・育てる側の視点（乳幼児をもつ親の話聞くなど）
<p>カ 高齢者とのコミュニケーション</p> <p style="text-align: right;">適宜選択</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者への訪問（日常生活の手伝いなど） ・高齢者を学校に招待（簡単な調理など） ・地域の福祉施設等の訪問 ・日常生活の介助（食事、被服の着脱、移動など）
<p>(2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立</p> <p>ア 消費生活と生涯を見通した経済の計画</p> <p>(ア) 消費者問題の現状と課題</p> <p>(イ) 消費者の権利と自立支援</p> <p>(ウ) 消費行動と意思決定</p> <p>(エ) 生涯の経済計画とリスク管理</p>	<p>*契約、消費者信用、多重債務問題などを取り上げて具体的に扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者問題の発生と被害の防止、救済 ・契約（売買契約）、問題のある販売方法への対応 ・表示偽装、製品事故 ・消費者基本法（消費者の権利、消費者支援の諸制度） ・消費者としての責任と行動 ・消費者が意思決定を行う過程（問題の自覚、情報収集、解決策の比較検討、決定、評価など） ・意思決定と金銭、時間、エネルギーなどの資源の適切な活用とのかかわり ・様々な生活情報の特徴や課題 ・財・サービスを購入する際の生活情報の適切な活用 ・家計管理の基本と不測の事態にかかわるリスク管理の方法（ローン、クレジットの利用、貯蓄、保険、株式など） ・年金や保険を含めた経済計画

<p>イ ライフスタイルと環境</p> <p>(ア) 消費生活と環境とのかかわり</p> <p>(イ) 環境負荷の少ない生活への取組</p>	<p>*環境負荷の少ない生活の工夫に重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の消費行動と家族や地域社会における消費総量の問題との関連についての具体的事例 ・進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルの実践 ・環境問題に配慮する製品の選択、購入、使用方法や生活の仕方などの点検 ・国際標準化機構など（ISO9000品質管理、ISO14001環境管理）の理解
<p>ウ 生涯の生活設計</p>	<p>* (1)及び(2)のイ、イの内容と関連を図るとともに、(1)から(5)までの学習の中で段階的に扱ったり、「生活デザイン」の学習のまとめとして扱ったりするなどの工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容とかがわらせて自分の目指すライフスタイルを実現するための生活設計の立案
<p>(3) 食生活の設計と創造</p> <p>ア 家族の健康と食事</p> <p>(ア) 食事の意義と食生活の課題</p> <p>(イ) 家族の栄養と食事</p> <p>(ウ) 家族の食事と献立</p>	<p>*実験・実習を中心に、実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を重視して指導する。</p> <p>*調理実習を通して、家族の食事を整えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の意義 ・食習慣と健康とのかかわり ・青年期における食生活の課題 ・食事摂取基準、食品群別摂取量のめやす ・家族の栄養や嗜好、調理の能率、経済面を考慮した献立作成
<p>イ おいしさの科学と調理</p> <p>(ア) おいしさの要素</p> <p>(イ) 食品の調理とおいしさの科学</p> <p>(ウ) 食品の加工とおいしさの科学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物のおいしさの要素（味、香り、テクスチャー、外観、音、温度など） ・日常用いられる食品の栄養的特質、調理上の性質、調理によるおいしさの変化 ・非加熱調理操作と加熱調理操作の要点 ・安全・衛生に配慮した調理実習 ・世界の食文化、食事様式 ・食品の加工（乾燥、塩蔵、発酵、燻煙など）によるおいしさの変化 ・生鮮食品や加工食品の鑑別方法
<p>ウ 食生活と環境</p> <p>(ア) 食生活の安全と衛生</p> <p>(イ) 環境に配慮した食生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の購入、調理、保存の際の安全と衛生 ・身近な食中毒の具体例 ・社会における食品の安全確保のしくみ ・食生活を取り巻く環境の変化（生産、流通、販売の多様化、輸入食品、食料自給率の低下、外食、中食への依存など） ・資源、エネルギーに配慮した購入、調理、保存 ・生産から消費に至る過程における食の安全・衛生（フードマイレージ、地産地消）
<p>エ 食生活のデザインと実践</p> <p>(ア) 地域と食文化</p> <p>(イ) 世界の食文化</p> <p>(ウ) 食生活の実践</p> <p style="text-align: right;">適宜選択</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食文化の特徴（郷土食、行事食、日常食） ・日本と世界の食文化とのかかわり ・日常の家族の食事の計画と実践
<p>(4) 衣生活の設計と創造</p> <p>ア 装いの科学と表現</p> <p>(ア) 被服の機能と着心地</p> <p>(イ) 装いと表現</p>	<p>*実験・実習を中心に、実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を重視して指導する。</p> <p>*身体を覆う「衣服」を中心として扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能と被服材料の性能や被服の構成及び人の心理面とのかかわり ・高校生の装いに対する関心、社会的慣習と調和
<p>イ 被服の構成と製作</p> <p>(ア) 被服の構成と身体</p> <p>(イ) 被服の製作</p>	<p>*生徒の技術や興味・関心に応じて、衣服の製作につながる縫製技術を身に付けさせる。</p> <p>*ものづくりの発想を重視し、生活の質を向上させる楽しさや達成感が味わえるように工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和服や洋服を例に取り上げ、平面構成や立体構成の特徴や構成、被服材料の違い ・装飾や被服材料の工夫など創造的な製作ができるような適切な題材の設定（既製服の活用、共同作業など）

ウ 衣生活の管理と環境 (ア) 被服の選択 (イ) 被服の管理と環境に配慮した衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・被服材料や被服の構成，身体寸法と衣料サイズとの関係 ・既製服，ファッションに関する情報 ・被服の入手，洗濯，保管など ・湿式洗濯（ランドリー）と乾式洗濯（ドライクリーニング）の特徴 ・資源の有効活用の観点から，購入，活用，手入れ，保管，再利用，廃棄などを考えた被服計画の必要性
エ 衣生活のデザインと実践 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">適宜選択</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・布を使った伝統的な生活の文化を現代に生かす工夫 ・既製服の生産と流通 ・循環型社会の持続に配慮した衣生活の在り方
(5) 住生活の設計と創造 ア 家族の生活と住居 (ア) 住居の機能 (イ) 家族のライフステージと住居	*実験・実習を中心に，実践的・体験的な学習や問題解決的な学習を重視して指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を営む場としての住居の機能と維持・管理 ・家族のライフステージやライフスタイルと住空間 ・暮らしやすい住空間の在り方（バリアフリーデザイン，ユニバーサルデザイン）
イ 快適さの科学と住空間の設計 (ア) 快適な住空間の設計 (イ) インテリア計画	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能（安全性，保健性，快適性，耐久性など） ・住居の平面計画（住要求，ライフスタイル，敷地条件，生活の動線など） ・平面表示記号 ・インテリアデザイン要素（形態，色彩，材質など） ・インテリア計画（生活行為や動作に必要な広さ，家具の配置） ・生活環境と園芸とのかかわり
ウ 住居と住環境 (ア) 住環境と地域 (イ) 環境に配慮した住生活	<ul style="list-style-type: none"> ・集まって住むためのよりよい住環境 ・住環境を守る制度 ・住居を取り巻くコミュニティ ・自然環境と調和した住生活の必要性
エ 住生活のデザインと実践 <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">適宜選択</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の歴史的変遷 ・現代の住生活の現状と課題
(6) ホームプロジェクトと学校 家庭クラブ活動	*内容の(1)から(5)までの学習の発展として扱う。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の問題解決的な学習活動 ・生活課題を見だし，課題解決のための計画，実行，反省・評価（Plan-Do-See） ・ボランティア活動など地域社会とのつながり ・成果の発表会（思考力・判断力・表現力）

*は，指導上の留意点等
・は，指導項目